

## 地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和8年4月23日 (3回目)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	ひたちなか市 82210
地域名 (地域内農業集落名)	佐野・田彦中地区 (高野・佐和・稲田・高場・田彦)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	154.36 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	140.92 ha
② 田の面積	79.68 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	74.68 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	20.16 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.6 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	92.96 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	73.06 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

①地域の基礎的データ【令和7年度現在】

○担い手(認定農業者)の人数

高野1人(うち70歳以上1人), 佐和4人, 稲田2人(うち70歳以上1人), 田彦1人

○主な作物

水稲, 甘藷

②現状及び課題

【高野】

- ・担い手が高齢化, 不足しており, 後継者も不足している。
- ・担い手がわからない。

【佐和】

- ・担い手が高齢化している。
- ・小さな農地が分散している。
- ・耕作放棄地が増加している。
- ・農道が狭い
- ・排水路が機能していない

【稲田・田彦】

- ・耕作者が高齢化しており, 後継者が不足している。
- ・市街化している。(新しい住民との関係)
- ・休耕地, 耕作放棄地が増加している。
- ・農道が狭い
- ・農地が狭い, 分散している等耕作条件が悪い

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

露地栽培による甘藷や水稲を主要作物としつつ、地域の特産物であるほしいもを安定して生産できる地域を目指す。

【高野】

- ・若手耕作者を育成する。
- ・法人化, 農業団体の設立を検討する。

【佐和】

- ・農業法人へ委託する。
- ・佐和地区に相応しい基盤整備をする。
- ・境界区域の統合による集約化を図る。

【稲田・田彦】

- ・後継者を育成する。
- ・農地を集約する。
- ・農地中間管理機構の活用
- ・基盤整備事業の活用

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

農地中間管理機構を活用し、担い手(認定農業者)への農地の集積・集約化を基本としつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で農地利用を進める。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	14	%	将来の目標とする集積率	14	%
--------	----	---	-------------	----	---

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

農地中間管理機構, 農業委員会と連携し、担い手(認定農業者)に農地の集積・集約化を進める。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組

【高野】

- ・農地集積, 集約に向けた地域のリーダーを作る。
- ・耕作者の意向を把握する。
- ・大字(集落)単位でまとめる。

【佐和】

- ・大規模農化へ委託する。
- ・農作物ごとに集約する。

【稲田・田彦】

- ・担い手を中心に段階的に集約する。
- ・担い手の情報交換会を開催する。

(2)農地中間管理機構の活用方法

農地の集積・集約化の方針及び担い手の意向を踏まえ、農地中間管理機構を活用しながら段階的に集積・集約化を進める。

(3)基盤整備事業への取組

【高野】

- ・基盤整備, 補助金の勉強会を開催する。
- ・耕作者を中心とした団体の設立を検討する。

【佐和】

- ・全ての地権者の意向を把握し, 佐和地区に相応しい基盤整備をする。
- ・基盤整備, 補助金の勉強会を開催する。
- ・農道を整備する。
- ・排水路の整備

【稲田・田彦】

- ・担い手の意向を把握する。
- ・農道を整備する。

(4)多様な経営体の確保・育成の取組

【高野】

- ・新規就農者を確保・育成する。
- ・若手耕作者の勉強会を開催する。

【佐和】

- ・行政, JAと連携し情報を共有する。
- ・リタイヤ世代も巻き込んだ新規就農者の育成を図る。

【稲田・田彦】

- ・行政, JA, 農業高校を連携する。
- ・地域での情報交換会を開催する。

(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組

【高野】

- ・耕作する農業法人を作る。
- ・法人ではない農業集団を作る。

【佐和】

- ・JA作業委託を積極的に活用する。
- ・委託専門業者を法人化する。

【稲田・田彦】

- ・JAを通して作業委託する。
- ・作業委託料を明確化(見える化)する。
- ・新規就農者へ農機具をレンタルする。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】



